

平成 25 年度 活動方針

少子高齢化、長引く経済の低迷及び正規雇用の減少、核家族化や一人世帯の増加など地域保健を取り巻く環境が大きく変化する中、健康寿命の延伸、健康格差の縮小の実現などが大きな課題となっています。一方、行財政改革や市町村合併、市町村への権限移譲の促進により、地域保健の基盤となる組織体制も大きく変容し、これまでと同様な行政サービスでは多様化・高度化する住民ニーズに対応することが困難な状況となっています。

このような中、平成 24 年度は 7 月に地域保健対策の推進に関する基本的な指針の改正がなされ、さらに保健師活動指針の改定や、健康日本 21(第 2 次)計画の策定など、保健師活動においても大きな節目を迎えています。新たな時代に求められる保健師活動は、公衆衛生看護活動の原点に立ち返り、地域の実態を把握し、住民の声に耳を傾け住民と共に行う地区活動、ソーシャル・キャピタルの活用や醸成に取り組む必要があります。また、業務のアウトソースが進む中で、そのあり方や評価についても検討をしていくことが重要です。

さらに、東日本大震災の支援では、被災者の命と健康を守る息が長い支援を継続的に行うための体制整備を図っていくことも求められます。

これからの保健師活動には、多岐にわたる専門能力の充実がこれまで以上に求められており、それには、保健師基礎教育課程の充実や現任教育として、ともに育ちあう職場風土を醸成することが重要です。

全国保健師長会は、健康寿命の延伸や健康格差の縮小など新たな時代に求められる保健師活動を視野に入れながら、実践を理論につなげ、標準化、可視化が図れるよう、各ブロックの研修や研究的な取り組みを行っていきます。そして、生き生きと活力ある保健師活動を目指し、次世代を担う若い保健師の成長を支援しながら、つながりを強化する基礎を築いていきます。

平成 25 年度 活動テーマ

社会の課題に向き合う保健師活動の展開

～ 公衆衛生看護活動の原点に立ち返り、命と健康と生活を守る活動を目指し ～

1. 保健師の地域保健福祉分野における専門性を確立する
 - ・保健師一人ひとりが、自律し専門性を生かした保健師活動ができるよう各職場で現任教育の推進を図る
 - ・新たな健康課題に取り組むことができる次期リーダー(中堅保健師)の育成を推進する
 - ・保健事業の評価・可視化を図る
 - ・保健師教育の充実や臨地実習の充実に向けた取組みを推進する
2. ロック、支部活動の強化
 - ・健康寿命の延伸・健康格差の縮小等への取り組みなど、テーマに基づいた、情報交換・研修・報告会を活発に行い、自主的な活動を推進する
 - ・会員以外の若手保健師との積極的な意見交換・交流を行う
3. 息の長い被災地支援を実施
 - ・東日本大震災の被災地支援は息が長い支援を行っていく
4. 会員数の拡大
 - ・リーダー的立場の保健師の入会を増やす。特に市町村への働きかけを強化する